ＪＴＢ広域代表

事業展開を強化

ＪＴＢ協定旅館ホテル連盟の通常総会の開催に際して、ＪＴＢ広域代表の８人に宿泊増売や地域活性化への考え、現在そして今後の取り組みについて語っていただいた。

ＪＴＢ旅ホ連特集

北海道広域代表　執行役員　笹本　潤一　氏

「ならではの価値」を持つ商品造成

北海道の観光振興に大きく貢献している訪日インバウンドの動きについて、札幌を中心とした道央一極集中から地域分散への移行の傾向が見受けられる。２０１７年度下期サンライズツアーの販売実績において、前年比の伸長が著しかったのが各地域で展開されている体験プラン（前年対比４４０％）であり、中でも網走の流氷砕氷船や知床の流氷ウォークといった冬の北海道でしか体験できない「ならではの価値」を持つ観光素材が大きく実績を伸ばした。

２０２０年には新千歳空港をはじめとする道内７空港の一括民営化が予定されている。運営権者の選定審査において重要視されるのは７空港連携による誘客促進策や観光振興策の提案だ。これを機に、新千歳空港ＩＮ／ＯＵＴの道央エリアを主としたコースのみならず、地方空港を絡めた道内周遊型のコースも活発化してくることが想定される。そうなれば、今まで注目されなかった地域や観光素材にスポットが当たることになるだろう。

近年、われわれが実践してきた地域交流事業では、中央省庁や自治体との連携を図りながら各地域における観光ニーズ調査や観光素材の掘り起こしなどに取り組んできた。今年度はＮＰＳ指標の導入とともに、それらの取り組みによって得られた貴重なデータや観光素材を生かした「ならではの価値」を持つ商品造成に努める。そしてこれらの取り組みを前述の業界動向にマッチングさせることで「創客」と「送客」を実現し、各地域における宿泊券増売につなげていきたい。

関東・甲越広域代表　執行役員　鎌田　孝昭　氏

「お役に立ち営業」を推進へ

今年度は、次代のＪＴＢを見据えたバックキャスティングによる構造改革スタートの年であり、スピードを持って推進に取り組む。ここ数年来アジア諸国を中心に、経済成長を背景とした訪日旅行客の増加に加え、サービスのデジタル化に促された節約志向型の個人旅行が増加傾向にあるが、顧客の求める価値、目的は多様化しており、その欲求を満たすことのできる商品、サービス、仕組みを再構築していかなくてはならないと考える。

関東・甲越エリアには世界遺産登録の富士山、日光など有望な観光資源が多数顕在しているが、エリアとしての認知が不十分であり、点の集約・ルート化の実現が喫緊の課題だと認識している。

今年度下期には、国内キャンペーン「日本の旬 北関東」を群馬、栃木、茨城の３県を舞台に展開する。「五色豊穣 また来たくなる感動三国」をコンセプトに、日光・中禅寺湖の紅葉などの「赤」、群馬・四万ブルーなどの「青」、茨城・袋田の滝などの「白」、地元ならではのグルメ、けんちんそばなどの「茶」など北関東の魅力を色に例えて発信し、主たる目的である宿泊増売につなげていく。

ツーリズムによる地域振興は、極めて重要な事業課題である。ＤＭＣカンパニーとして旅ホ連各支部会員の皆さまをはじめ、地域のさまざまな方々と一緒になり「地域資源の魅力を再発見し、未だ顕在化されていない〝地域の宝〟に磨きをかけ、全国、世界各国からの誘客を促進する」ことで交流人口の拡大、経済効果が持続的に発揮できるよう、「お役に立ち営業」を推進していきたい。

東北広域代表　執行役員　森　吉弘　氏

復興から未来へ、地域連携で創客

震災から７年が経過し、東北は新たな発展に向かって歩み始めている。２０１７年のインバウンド延べ宿泊者数は約94万６千人（前年比約１４６％）となり明るい話題となった。東北６県や東北観光推進機構など、官民が連携して誘客に取り組んできた成果が現れた形だ。

２０１８年度は、これまで推進してきた地域と連携した誘客活動をさらに加速するべく、地域交流事業の推進に注力していく。各法人個所には観光開発プロデューサーを配置し、東北各支部の皆さまや自治体との連携により、新たな観光素材の開発や国内外のお客さまの受け入れ強化に積極的に取り組んでいく。

また、販売を担う各個所の担当者を対象として、各宿泊施設をよく知るための研修や関係機関の皆さまとのコミュニケーション強化につながる取り組みを実施する。

４月22日に開催された羽生結弦選手の凱旋パレードは約11万人の人出となり、前日当日の宿泊は、仙台市内をはじめ周辺地域まで満室状態になるなど、あらためて注目度の高いイベントの人流創出効果を実感した。

今年度は、東北絆まつり（盛岡・６月２、３日）、全国植樹祭（南相馬・６月10日）、劇団四季「オペラ座の怪人」ロングラン公演（仙台・10月22日～12月24日）などの大型イベントの取り扱いにより、宿泊増売に貢献する。次年度以降は、ラグビーＷ杯（釜石）や東京２０２０オリンピック・パラリンピック（福島）を契機に、さらなる人流拡大を東北各支部、自治体、観光関連諸団体と連携して取り組んでいきたい。

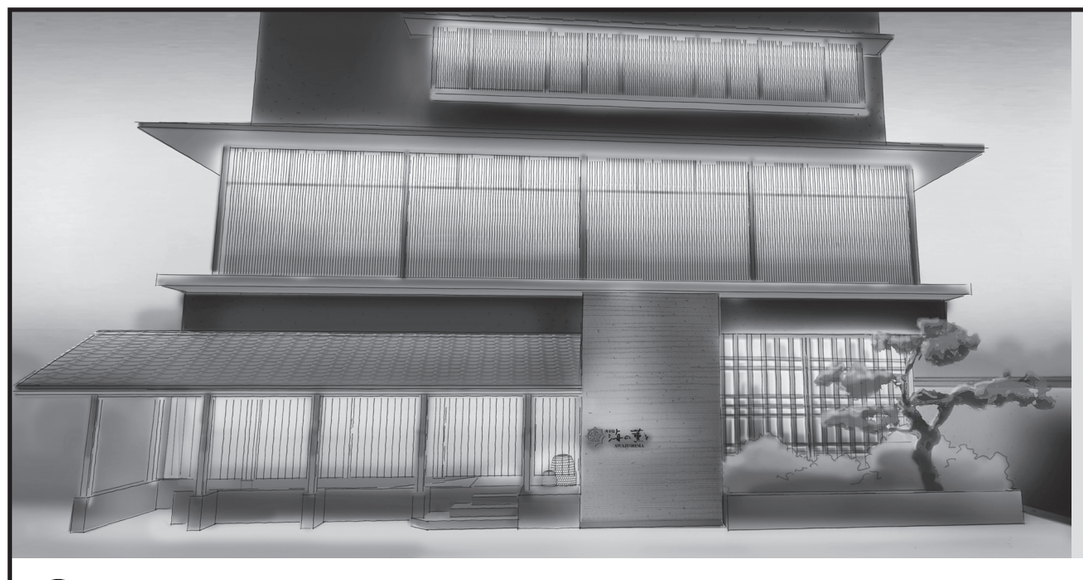
中部広域代表　常務執行役員　松本　博　氏

挑戦の年、交流創造事業を推進

２０１７年度は大河ドラマ「おんな城主直虎」の放映やレゴランド開業など全国から注目される要素があり、また、上期にＪＴＢ国内最大のデスティネーションキャンペーン「日本の旬信州」を実施したことで、中部経済圏に一定の貢献ができたと考える。

中部地域では、輸出関連好調業種を中心に設備投資や雇用が増え、法人需要のみならず、個人消費も順調に伸びている。そのような環境の下、今年度はレゴランド®・ジャパン・ホテル、シーライフ名古屋、金シャチ横丁などの観光スポットが新規開業し、９月には福井国体開催、10月から３カ月間にわたる愛知デスティネーションキャンペーンが展開され、誘客に追い風となっている。また、２０１９年にはラグビーワールドカップ日本大会において豊田と磐田、二つのスタジアムが会場となるなど、ＭＩＣＥ・イベントが続く。伸長する訪日インバウンド市場においても、昇竜道や立山黒部アルペンルート、サミットで脚光を浴びた伊勢志摩など認知度が高まり、集客力を増している。ＪＴＢとしてもゲートウェイである中部国際空港内のツーリストインフォメーションセンターを中心に受け入れ態勢の強化を図ってきた。今後も時流を捉え、当地方の観光資源の魅力を掘り起こして国内外へ発信し、宿泊券の増売に尽力したい。

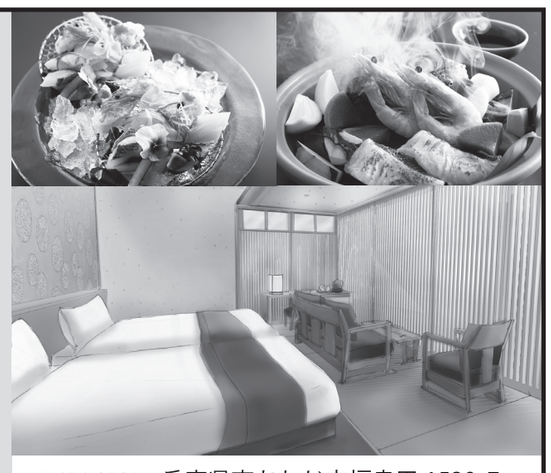
新体制移行後も仕入、造成、販売のバリューチェーンを構築し、地域と一体となった販売促進を行うことで、中部の発展に寄与し、人流を創出していきたい。



ホテルニューアワジグループ
湊小宿 海の薫り AWAJISHIMA
6月20日（水）開業

昔ながらの温かみ溢れる
湊町の一軒家

淡路島の最南端、天然の良港を持ち、鳴門の渦潮観光で賑わう福良の町の中心から程よく離れた静かな小宿で、どこまでも拡がる青い空と遊ぶ屋上露天風呂で心と身体を解き放ち、海と空と風の薫りを感じながら過ごすひと時。湊町の風情漂う活気あるダイニングでは食の宝庫・淡路島の文化・風土の中で育まれてきた島の食と出会い、新たな発見に心躍らせ、そして味わいつくす。そんな特別な食の体験が待っています。



〒656-0501 兵庫県南あわじ市福良甲 1529-7
Tel：0799−25−2521
（ホテルニューアワジグループ予約センター）

Hotel New Awaji Group　ホテルニューアワジ　茨路夢見景　天原　海のホテル島花　渚の荘 花季　夢海路 淡路島　ホテルニューアワジ プラザ淡路島　あわじ漁師宮　Sheraton KOBE BAY HOTEL & TOWERS　琴平花壇　湯山荘 阿讃琴南　清水小路 坂のホテル京都